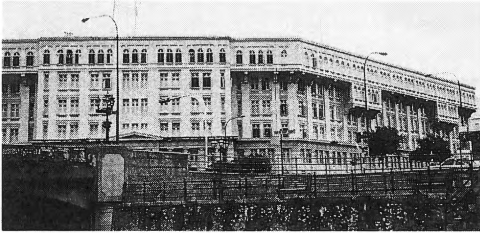


外国文書館案内 14 シンガポール公文書館 (National Archives of Singapore)



シンガポール国立公文書館

シンガポールは赤道から136km北にあって、淡路島ほどの大きさの本島と50以上の島からなる小さな国である。総人口は280万人であるが、中国系、マレー系、インド系、ユーラシアン系など様々な民族が住む複合民族国家である。

シンガポールが独立したのはさほど古くなく1965年のことである。1942年に日本軍に占領され昭南島と改名された。終戦後はイギリスの軍政下に置かれたが、1959年にはマレーシアの自治州となり、1965年に、アレーシアから独立した。

アジアのいずれの国においてもそうであるが、我々が訪れると必ず意識せざるを得ないのがわが国が関わったその歴史である。特に今年は戦後50年であるとともにシンガポール独立30年であるため、本年8月に訪れた折には、国立博物館ほかでこれにかかるイベントが行われていた。これらのイベントには国立公文書館からの多くの史料が出品されている。

シンガポール国立公文書館は、シンガポールの目抜き通りであるオーチャード通りにほど近く、フォートカニング公園の南端にあってスコット通りに面しており、西側はシンガポール川に面している。フォートカニング公園には国立博物館、国立図書館もある。建物はいささか古いけれども、写真に見られるようにたいへん立派な建物である。

さて、シンガポール国立公文書館 (National Archives of Singapore) は独立から3年後の1968年に National Archives として設立され、1993年に The Oral History Centre (伝承歴史センター) を公文書館に加えている。なお国立公文書館、その一部である伝承歴史センターお

よび国立博物館の3施設によって National Heritage Board (文化遺産委員会) を構成している。

公文書館の主要な史料は1926年以後の婚姻証明書、大戦時の英雄である Lim Bo Seng の日記、日本占領下の配給票および写真類、政府公文書、建築設計図、地図類などである。

公文書館には Record Management Unit 史料管理部、The Oral History Centre 伝承歴史センター、Conservation Unit 修復部、Archives Reference Services 公文書検索サービス部、Micrographics Unit マイクログラフ部、Exhibition Unit 展示部の各部署がある。

史料管理部は政府文書の永久保存選択についての責任を持っており、政府各部署に対する、記録管理とマイクロフィルム化について助言を行うとともに、記録管理の訓練プログラムを実施している。修復部は文書の殺虫 (Vacuum Fumigation)、酸性紙の脱酸処理、ポリエステルによるエンカプセレーション、リーフキャストリング等を行い、19世紀からの海峡整備記録の修復、国立図書館の稀こう本の修復、建築図面や地図の修復等を行っている。



閲覧室 左側が受付デスク

シンガポール国立公文書館を特色づけるものは伝承記録センターであろう。伝承記録センターは「シンガポール国民の共有の記憶を通じて、シンガポールの歴史を記録し、文書化し、保存する」ことを目的として、シンガポールの開拓者達、日本によるシンガポール占領、消えつつある職業の歴史、各民族に伝わる子守歌や伝承、複合民族の文化と地域社会の経験などの記録を作成し利用に供している。

(小川雄二郎・国際連合地域開発センター)